

9月18日(日)・19日(敬老の日)

巻き寿司 強化月間 第3弾



1パック

『うなぎ・鯛・海老・山芋・玉子・きゅうり・かんぴょう・とびっこ・ネギトロ』の9種類

1,580円 (税込)

長寿巻き

おまえ百まで わしや九十九まで

敬老の日恒例の西田の長寿巻き。中身の具材は、美味しさも勿論ですが栄養や意味合いも含まれております。海老→腰が丸く曲がるまで長生きする。山芋→長く食べると耳や目がさくくなり身体も軽やかになる。

ウナギ→勢力増強！スタミナ抜群！美味しき抜群 鯛→日本では、めでたいの言葉にちなんで、全てのお祝いや祭り事に用いられます。

そこに前回上西がこだわっていたネギトロを合わせてみたら！と、鮮魚の母ちゃんこと、原さんの素晴らしいアドバイス！山芋と紅白になるし柔らかく相性も抜群。

困ったときにいつも僕を助けてくれる原さん、たまに素で母ちゃんと呼んでしまう日もあります(笑)。

こうやって日々広告を考えさせて頂いている時、鮮魚ではワイワイ、ガヤガヤといつの間にか皆が集まって来て商品が生まれています。自分で言うのもなんですが、素晴らしい職場なんです。

本日も、皆さんの思い出のシーンの名脇役になり、笑顔や思い出になる事を思いながら、長寿巻きを作らせて頂いております。

あと私事ですが、娘が今年から社会人になり働きだしました。初任給から一生懸命お金を貯めて、プレゼントしてくれました。嬉しくて……(笑)。プレゼントして素敵な文化の一つですね。

西田鮮魚店 主任 奥原 歩久斗

西田鮮魚店

72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達) 御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『池井戸潤の小説における おばさんの存在』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

『陸王』を読んでいます。

『半沢直樹』を書いた池井戸潤の小説。何年前か、役所広司主演でドラマ化されて話題になっていました。零細町企業の、しがない足袋製造会社が、ランニングシューズの製作に挑戦、みごとに完成させていく物語です。まだ、3分の2しか読んでないのですが……。

実は、この手紙を書くのは月曜日から水曜日。書きたためておくなどという器用なことができないたちで、その週にならなければ何も浮かんできません。それもこれも魚屋の習性ゆえかもしれません。魚は漁れてみなければわからない、市場に行かなければ始まらない仕事ですから。

素人の悲しさ。さっさと書ける時もあれば、なんにも浮かばない時も。今回はそうでした。ずっと、パソコンの前に坐って、キーボードを叩くのですが続かない。今日は月曜日。明日から3日間、四国に行かなければいけません。仕方ない、今週は休みだと腹を決めて家に帰りました。

しかし、祐宗店長には、毎週、広告を出さんといけんと言っている手前、私が穴をあけるのも、どんなものか。示しが尽きません。毎週、品を選び出す大変さは私もよく分かりますから。

でも、明日は早い。心の弱い私は、ええい寝てしまえとベッドに入り、『陸王』を開き、読み始めました。

小さな町工場。そこで働く人たちの泣き笑いに、気持ちが和みます。

役所広司演ずる社長。先代から勤める古参の経理担当常務。右腕の現場の製造責任者。そんな中に必ず登場するのが、しつかりもので、口は悪いが憎めない。しんどい時にこそ笑いを忘れず、そのくせ涙もろいおばさんです。

読みながら、ピーンと来るものがありました。これを書こうこれを書きたい。しかし、時計を見ると10時半。明日、早い。寝とかんと。イヤイヤ、それでは、祐宗店長たちに申し開きができます。ベッドを出ました。そして事務所に来て、こうしてキーボードを叩いています。

9月1日。私は去年から始めた『ミートファクトリー』あんず お肉の工場直売所』の本部の花田社長と一緒にいました。彼が『すし辰』で寿司を食べたいというので、緑井本店に案内することにしました。前にも書きましたが、私は会長になって以来、ほとんど店に顔を出していません。ということは、2〜3年ぶりに店に行く、ということになります。これくらい行かないと、店に入るのに、ちよつと勇気がいりません。ちよつとですが。

入るなり、そこには伝説の接客の角川さんが。「え〜〜っ」という笑顔で迎えてくれました。カウンターに坐ると体道有段者の河野さんが、おしほりを持って来て、私とわかれるとビクッリ顔で、「お久しぶりです」。今度の体道の大会で審査員を務めるらしい。カウンターのの中には平野店長と鈴木さん。この二人は男です。その横のネタケースの前に、めっちゃめっちゃ、おもしろくて、話好きな中村さんが寿司を握っています。

寿司はどれもおいしかった。安心しました。名物のバッテラは、花田社長も絶賛。

中でも、これでもかと、あさりを詰め込んだあさり汁には、「すごいね!」。説明しました。何故、こんなにあさりを盛っているのかを。企画担当のスタッフが言うには、魚の高騰で寿司の値段も高くなり、お寿司でお腹いっぱいにするの、けっこうな会計になってしまふ。そこで、あさりで、ある程度お腹を膨らませていただくのと考えたのだと。なるほど、な。

会計をしようとレジ前に立つとホノルルマラソンを走った西河内さんがっこりと……。

この『すし辰 緑井本店』もオープンから20年以上たちます。私も会社も、行け行けどんどの頃。たくさんのパートスタッフのみんなが支えてくれました。家庭があり、家族もある彼女たちに、残業をお願いしたり、休日に出勤してもらったり、年末年始に出てもらったり、それはそれは無理を言いました。彼女たちは、店の大変さを理解し、それに応えてくれました。

そして、結婚前の仕事の経験があり、主婦として家を切り盛りする彼女たちの働きぶりはみごとでした。

『陸王』の阿川佐和子さんや正司照枝さんの役そのもの存在でした。

こう見えて私も、けっこう苦勞しているのです。役所広司に負けてはいません。今の私があるのは、彼女たちのおかげです。

レジを終えて、なんか、ホッとした心持で駐車場の隅に停めていた車に乗り、エンジンをかけたその時、店の裏から白衣の女性が出て来ました。「栗栖さんじゃ」。私は、すぐに車を降りて、手を振りました。彼女は小走りに近付いてきます。思わず、ハグしてしまいました。軽いです。

私が店に来ていたと聞いて、急いで出てきてくれたそうです。私より一つ二つ年上。彼女も20年勤め、厨房のアラ処理室で、手際良く魚を卸してくれています。玄関口の花の世話も彼女がやってくれていました。『縁の下の力持ち』というならば、それは栗栖さんのことに違いありません。力持ちじゃないか、華奢(かたかた)じゃものね。

「今度は裏から入るから」と声をかけて別れました。

いかん、一時を回ってしまった。寝なくては……。

